

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年3月25日
【事業年度】	第58期(自平成27年1月1日至平成27年12月31日)
【会社名】	株式会社 小山カントリー倶楽部
【英訳名】	OYAMA COUNTRY CLUB LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役 内ヶ崎 功
【本店の所在の場所】	栃木県小山市大字喜沢1140番地
【電話番号】	(0285)-22-1084番
【事務連絡者氏名】	経理課長 浅野 貢一
【最寄りの連絡場所】	栃木県小山市大字喜沢1140番地
【電話番号】	(0285)-22-1084番
【事務連絡者氏名】	経理課長 浅野 貢一
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月
売上高 (千円)	336,499	362,873	346,887	336,683	335,327
経常利益又は 経常損失() (千円)	32,783	14,028	4,354	10,844	24,523
当期純利益又は 当期純損失() (千円)	52,636	36,377	6,171	5,445	21,274
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	409,250	75,000	75,000	77,500	77,500
発行済株式総数 (株)	普通株式 3,615	普通株式 3,618 A種株式 42 B種株式 16	普通株式 3,618 A種株式 42 B種株式 16	普通株式 3,619 A種株式 42 B種株式 16	普通株式 3,619 A種株式 42 B種株式 16
純資産額 (千円)	1,943,915	2,365,292	2,359,121	2,358,675	2,337,401
総資産額 (千円)	8,479,104	8,534,856	8,484,585	8,409,101	8,340,054
1株当たり純資産額 (円)	537,736	551,490	549,784	549,509	543,631
1株当たり配当額 (円)					
1株当たり当期純利益 又は当期純損失() (円)	14,570	10,058	1,705	1,505	5,878
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)		9,890			
自己資本比率 (%)	22.9	27.7	27.8	28.0	28.0
自己資本利益率 (%)	2.7	1.5	0.3	0.2	0.9
株価収益率 (倍)					
配当性向 (%)					
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,673	20,435	8,887	2,739	11,297
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	7,582	8,175	9,182	7,620	13,992
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	20,000	59,350	37,692	50,575	40,952
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	185,802	257,412	219,424	158,488	92,246
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	29 (30)	29 (30)	26 (27)	28 (26)	25 (24)

(注) 1 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2 当社は関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

3 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

4 第54期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、新株予約権付社債等潜在株式がないため、また第56期、第57期及び第58期は潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5 当社は、株式が非上場、非登録であり、株価の算定が困難なため、株価収益率は記載しておりません。

2 【沿革】

昭和33年12月	日産系各社の福利厚生施設の一環として栃木県小山市大字喜沢にゴルフ場を経営することを目的に設立。資本金3,000万円。本店所在地を東京都千代田区丸の内2丁目に置く。
昭和34年1月	コース造成工事着工。
昭和34年2月	第1次増資3,800万円。増資後資本金6,800万円。
昭和34年6月	第2次増資6,000万円。増資後資本金1億2,800万円。
昭和34年11月	コース造成工事概略完工し、18ホールをもって仮開場。
昭和35年1月	第3次増資4,500万円。増資後資本金1億7,300万円。
昭和35年11月	本館クラブハウスを現在地に竣工、本開場。
昭和36年10月	第1次週日会員募集開始。
昭和39年2月	第2次週日会員募集開始。
昭和43年2月	本店所在地を東京都千代田区神田河合町4丁目に移転。
昭和43年10月	第3次週日会員募集開始。
昭和45年7月	継続事業として第2グリーン造成工事着手。
昭和46年12月	第2グリーン造成工事完工。
昭和54年10月	本店所在地を東京都千代田区西神田2丁目に移転。
昭和59年1月	1ホールに付コーライグリーン2面であったが、1面をベントグリーンとする改造に着手した。
昭和59年12月	ベントグリーン改造工事完了。
平成3年11月	賃借中のアウトコース内用地265,078㎡買収資金調達のため特別会員制度を設け募集を開始した。
平成4年3月	賃借中のアウトコース内用地265,078㎡買収完了、買収価額70億円。
平成5年4月	賃借中のインコース内用地14,075㎡買収完了、買収価額3億1千万円。
平成12年7月	本店所在地を栃木県小山市大字喜沢に移転。
平成12年12月	賃借中のアウトコース内用地5,436㎡買収、買収価額5千89万円。
平成17年6月	第4次増資2億1,125万円。増資後資本金3億8,425万円。
平成19年5月	第1次平日会員募集開始。
平成23年4月	第5次増資2,500万円。増資後資本金4億925万円。
平成24年2月	A種株式発行による増資9,250万円、B種株式発行による増資7,500万円。 増資後資本金5億7,675万円。
平成24年5月	資本金の額5億7,675万円を5億2,675万円減少し5,000万円とする。
平成24年7月	普通株式発行による増資750万円、A種株式発行による増資1,000万円。 増資後資本金6,750万円。
平成24年11月	A種株式発行による増資250万円、B種株式発行による増資500万円。 増資後資本金7,500万円。
平成26年10月	資本金の額7,500万円を250万円増加し7,750万円とする。

3 【事業の内容】

当社はゴルフ場の経営を主な事業とし、その付帯事業として食堂の委託経営及び売店の経営をしております。

4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成27年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
25(24)	43.8	9.6	3,876

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 労働組合の状況

当社は、労働組合は組織されていません。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当期におけるわが国経済は、総じて足踏み状態が継続しており、企業収益は良好な収益環境を継続しておりますが、消費者マインドはやや持ち直しの動きはあるものの実質支出は弱含みの状況にあります。一方、ゴルフ場業界におきましては、ゴルフ人口の減少傾向に歯止めがかからず、降雪、大雨、猛暑などの天候不順の影響もあって、厳しい経営環境が継続しました。

こうした中、当社が経営する小山ゴルフクラブにおいては、入場者確保へ向けて集客策を積極的に実施するとともに、10月に開催された第19回栃木県オープンゴルフ選手権大会に向けてコース整備の充実及びキャディサービスの質の向上に計画的に取り組み、成功裏に終了することができました。

また、当期の業績は、入場者の減等により前年に比べ売上高が減少し、各面にわたりコストの低減に努めたものの、コース整備費用等が増加したこと等から、遺憾ながら損失計上となりました。当期の成果は次のとおりです。

ア．営業日数及び入場者数

当期の営業日数は、所定営業日数355日に対し、降雪等による休業が4日あったため351日でした。入場者数は、21,483人(キャディ同伴18,965人、定休日セルフ2,518人)と前期に比べ356人、1.6%減少しました。

イ．業績

当期の売上高は、入場者数及び名義書換件数の減少により、335,327千円と前期に比べ1,355千円、0.4%の減収となりました。

経常損益は、前期に比べ13,679千円減益の24,523千円の損失、当期純損益は21,274千円の損失となりました。前期に比べ業績が悪化した要因は、売上高の減少により減収となったこと、コース整備費用等が増加したこと等です。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は営業活動 11,297千円、前年同期(2,739千円)比8,557千円減少、投資活動 13,992千円、前年同期(7,620千円)比、6,371千円支出増加及び財務活動 40,952千円、前年同期(50,575千円)比9,623千円支出減少と資金収入が下回り、期末残高は92,246千円と前年同期(158,488千円)比66,241千円減少となりました。

詳細については「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 3 キャッシュ・フローの状況」を参照して下さい。

2 【販売の状況】

事業区分別売上実績は次のとおりです。

事業区分	売上高(千円)	前年同期比(%)
プレー収入	269,985	1.3
食堂売店売上	15,301	3.7
名義書換料	32,850	25.0
その他収入	17,190	383.6
合計	335,327	0.4

(注) 上記金額には消費税等が含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

ゴルフ場業界においては、ゴルフ人口の減少等により、過当競争状態が継続すると考えられます。こうした中で、業績の安定化を図るためには、他コースとの違いを明確にし入場者を確保する必要があります。小山ゴルフクラブの特徴は、会員制のもと会員重視の運営姿勢を堅持していること、通常営業は全てキャディ同伴プレーとしており、首都圏に近い、自然を十分に残した平坦なコースであること等であり、今後ともこれらの特徴を活かし、コース整備の充実、キャディ、フロント、レストラン等のサービスの質の向上を図ってまいり所存であります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

(1) 経営環境について

当社の事業であるゴルフ事業経営は、景気の変動及び個人消費の動向が入場者数に大きく影響を与えます。

景気の低迷は売上高を減少させるリスクがあり、また近隣のゴルフ場では、会社更生法や民事再生法が適用されたゴルフ場が多く、身軽になったことでかなりの低料金での集客が可能となっております。低価格競争が当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 天候による影響について

天候が入場者の増減、売上高に大きな影響を及ぼします。また秋の台風及び冬の積雪はコースをクローズさせざるを得ず売上の減少要因となり、当社の業績に影響を受ける可能性があります。

(3) 会員の高齢化による影響について

当社は、会員及び会員が紹介するプレーヤーを受け入れており、会員の高齢化が進み会員1人当たりの来場回数が減ることになれば、入場者数の減少に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

1 財政状態について

(流動資産)

当事業年度末における、流動資産の残高は129,740千円で前事業年度末に比べ54,225千円減少しております。主な要因は現金及び預金56,235千円の減少によるものです。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は8,210,313千円で前事業年度末に比べ14,822千円減少しております。主な要因は有形固定資産10,390千円の減少によるものです。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は63,466千円で前事業年度末に比べ4,643千円増加しております。主な要因はその他に記載されております前受金5,355千円の増加によるものです。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は5,939,186千円で前事業年度末に比べ52,416千円減少しております。主な要因は長期預り金23,228千円、長期借入金21,240千円、退職給付引当金7,145千円の減少によるものです。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は2,337,401千円で前事業年度末に比べ21,274千円減少しております。主な要因は繰越利益剰余金21,132千円の減少によるものです。

2 経営成績について

(売上高)

当事業年度における売上高は335,327千円(前年同期比0.4%減)となりました。売上高が減少した主な要因は来場者減により3,454千円の減少によるものであります。

(売上総利益)

当事業年度における売上総利益はコース整備費用等の増加により前年同期比11.2%減の147,510千円となりました。

(一般管理費)

当事業年度における一般管理費は174,731千円と前年同期比4,186千円、2.3%減少しております。主な要因は固定資産税4,781千円の減少によるものです。

(営業損益)

当事業年度は営業損失27,220千円(前事業年度は営業損失12,774千円)となりました。

(経常損益)

当事業年度は経常損失24,523千円(前事業年度は経常損失10,844千円)となりました。

(当期純損益)

当事業年度は税引前当期純損失20,278千円(前事業年度は税引前当期純損失4,450千円)となり、税効果会計適用後の法人税等負担額は996千円となりました。その結果当事業年度は当期純損失21,274千円(前事業年度は当期純損失5,445千円)となりました。

3 キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果失われた資金は、前事業年度と比較して8,557千円増加しました。この主な要因は、税引前当期純損失 15,827千円及びその他に記載されております前受金6,034千円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前事業年度と比較して6,371千円増加しました。この主な要因は、定期預金の預入による支出増加10,006千円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前事業年度と比較して9,623千円減少しました。この主な要因は、長期預り金の返還による支出減少9,623千円によるものです。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

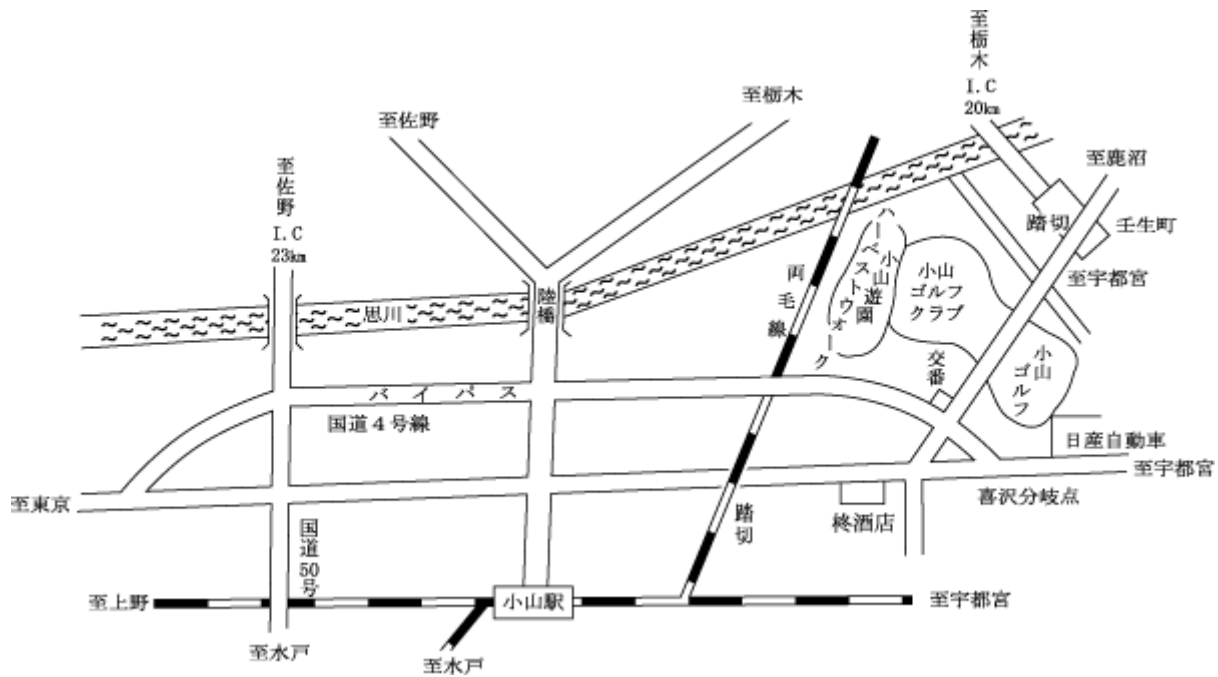
当期における設備投資の総額は7,939千円で、その内容は、男子浴室トイレ新設、カート道路舗装、バンカー均し機及びキャディハウス空調機2台の更新等です。

2 【主要な設備の状況】

区分	面積(m ²)	投下資本 (千円)	内容			従業員数 (人)
			種別	面積(m ²)	投下資本 (千円)	
小山ゴルフ場 (小山市)						25
建物	3,395	196,458	クラブハウス(注) 2 その他(注) 3	2,561 834	188,975 7,483	
構築物		30,324	ハウス関係(注) 4 コース関係(注) 5		9,518 20,805	
機械及び装置		3,561	コース関係(注) 6		3,561	
車両運搬具		8	ハウス関係(注) 7 コース関係(注) 8		8	
工具、器具 及び備品		3,708	ハウス関係 コース関係		3,708	
土地	728,749 (17,981)	7,735,156	雑種地 (立木等含む) 河川敷	713,562 (17,981) 15,187	7,735,156	
コース勘定	702,819 (17,981)	211,329		702,819 (17,981)	211,329	
合計		8,180,546			8,180,546	

- (注) 1 ()内数値は、内数で賃借中の借地であります。
ゴルフ場土地728,749m²の中、17,981m²は借地であります。
- 2 鉄筋コンクリート2階建ハウス及びキャディハウス他
 - 3 コース管理事務所及び焼土舎他
 - 4 駐車場他
 - 5 防球ネット他
 - 6 グリーンモア他
 - 7 送迎用バス他
 - 8 ダンプ車他

(A) コース設備場所は下図の通りであります。



(B) 交通関係は次の通りであります。

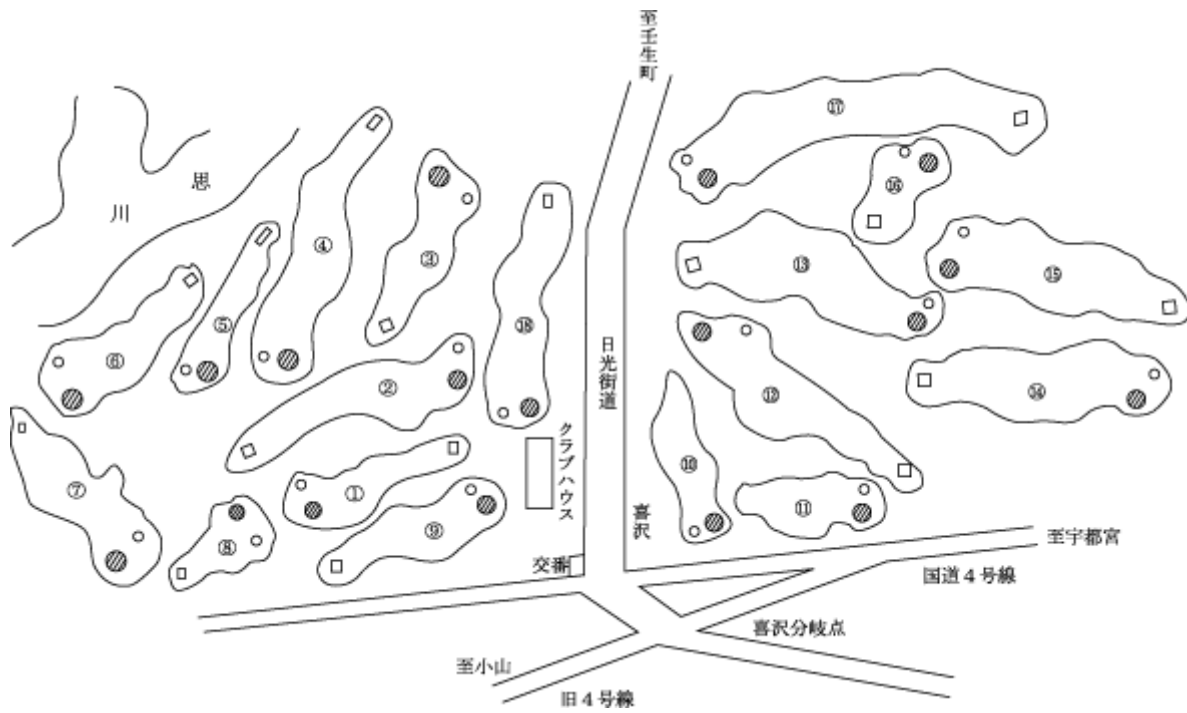
		所要時間
自動車	東京 ~ ゴルフ場 2 時間00分
	小山 ~ ゴルフ場 7 分
	栃木 ~ ゴルフ場 30分
高速道路	佐野IC ~ ゴルフ場 35分
	栃木IC ~ ゴルフ場 25分
JR	東京・上野 ~ 小山駅 1 時間20分 (快速 1 時間 東北新幹線45分)
クラブバス	小山駅 ~ ゴルフ場 10分

(C) 規模

(イ) 面積

コース面積 702,819平方メートル

(ロ) コースは次の通り18ホールであります。



(ハ) ホール内容

番号	距離	番号	距離
1	405ヤード	10	367ヤード
2	510	11	138
3	168	12	396
4	397	13	501
5	396	14	381
6	364	15	570
7	426	16	163
8	195	17	406
9	471	18	385
アウト小計	3,332	イン小計	3,307
		合計	6,639

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000
A種株式	150
B種株式	50
計	4,200

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年3月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,619	3,619	該当事項なし	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 (注) 1
A種株式	42	42	該当事項なし	(注) 1, 2, 4
B種株式	16	16	該当事項なし	(注) 1, 3, 5
計	3,677	3,677		

(注) 1 当社は単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

2 A種株式の内容

- (1) A種株主は、その有するA種株式の発行日から3年間(初日を除く)が経過した日以降いつでも、その有するA種株式にかえて、普通株式の交付を請求することができる。
- (2) 当社は、上記(1)の請求を受けた場合、A種株式1株の取得と引換えに、普通株式1株を交付する。
- (3) 当社は、残余財産を分配するときは、A種株主又はA種株式の登録株式質権者に対し、普通株主又は普通株式の登録株式質権者に先立ち、A種株式1株につき5,000,000円を支払う。A種株主又はA種株式の登録株式質権者に対しては、前記のほか残余財産の分配は行わない。
- (4) 定款において、法令に別段の定めがある場合を除き、会社法第322条第1項に定める種類株主総会の決議を要しないこととしている。
- (5) 譲渡による当社のA種株式の取得については取締役会の承認を要する。
- (6) 当社は単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3 B種株式の内容

- (1) B種株主は、いつでも、その有するB種株式にかえて、A種株式の交付を請求することができる。
- (2) 当社は、B種株式1株の取得と引換えに、A種株式2株を交付する。
- (3) 当社は、残余財産を分配するときは、B種株主又はB種株式の登録株式質権者に対し、普通株主又は普通株式の登録株式質権者に先立ち、B種株式1株につき10,000,000円を支払う。B種株主又はB種株式の登録株式質権者に対しては、前記のほか残余財産の分配は行わない。
- (4) 定款において、法令に別段の定めがある場合を除き、会社法第322条第1項に定める種類株主総会の決議を要しないこととしている。
- (5) 譲渡による当社のB種株式の取得については取締役会の承認を要する。
- (6) 当社は単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

4 A種株式は、預託金の現物出資による債務の株式化(210,000千円)によって発行されたものであります。

5 B種株式は、預託金の現物出資による債務の株式化(160,000千円)によって発行されたものであります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年4月14日 (注) 1	普通株式 10	3,615	25,000	409,250	25,000	263,250
平成24年2月10日 (注) 2	A種株式 37	3,652	92,500	501,750	92,500	355,750
平成24年2月10日 (注) 3	B種株式 15	3,667	75,000	576,750	75,000	430,750
平成24年5月25日 (注) 4			526,750	50,000		
平成24年7月19日 (注) 5	普通株式 3	3,670	7,500	57,500	7,500	438,250
平成24年7月19日 (注) 6	A種株式 4	3,674	10,000	67,500	10,000	448,250
平成24年11月29日 (注) 7	A種株式 1	3,675	2,500	70,000	2,500	450,750
平成24年11月29日 (注) 8	B種株式 1	3,676	5,000	75,000	5,000	455,750
平成26年10月9日 (注) 9	普通株式 1	3,677	2,500	77,500	2,500	458,250

(注) 1 有償第三者割当 10株 発行価額 5,000千円 資本組入額 2,500千円。

割当先 株式会社日立ハイテクノロジー

2 第三者割当 A種株式 37株 発行価額 5,000千円 資本組入額 2,500千円

3 第三者割当 B種株式 15株 発行価額 10,000千円 資本組入額 5,000千円

4 平成24年5月25日 資本金を526,750千円減少し、同額をその他資本剰余金に計上しました。

5 第三者割当 普通株式 3株 発行価額 5,000千円 資本組入額 2,500千円

6 第三者割当 A種株式 4株 発行価額 5,000千円 資本組入額 2,500千円

7 第三者割当 A種株式 1株 発行価額 5,000千円 資本組入額 2,500千円

8 第三者割当 B種株式 1株 発行価額 10,000千円 資本組入額 5,000千円

9 第三者割当 普通株式 1株 発行価額 5,000千円 資本組入額 2,500千円

(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成27年12月31日現在

区分	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計
					個人以外	個人		
株主数(人)		3		129			285	417
所有株式数(株)		164		2,622			833	3,619
所有株式数の割合(%)		4.5		72.5			23.0	100

A種株式

平成27年12月31日現在

区分	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計
					個人以外	個人		
株主数(人)				11			3	14
所有株式数(株)				38			4	42
所有株式数の割合(%)				90.5			9.5	100

B種株式

平成27年12月31日現在

区分	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計
					個人以外	個人		
株主数(人)				6				6
所有株式数(株)				16				16
所有株式数の割合(%)				100				100

(7) 【大株主の状況】

平成27年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
久保田 繁次郎	東京都大田区	540	14.69
日立金属株式会社	東京都港区港南 1 - 2 - 70	356	9.68
日本水産株式会社	東京都港区西新橋 1 - 3 - 1	248	6.74
株式会社日立製作所	東京都千代田区丸の内 1 - 6 - 6	227	6.17
株式会社ニチレイ	東京都中央区築地 6 - 19 - 20	214	5.82
ブルデンシャル生命保険株式会 社	東京都千代田区永田町 2 - 13 - 10	200	5.44
損害保険ジャパン日本興亜株式 会社	東京都新宿区西新宿 1 - 26 - 1	172	4.68
日立化成株式会社	東京都千代田区丸の内 1 - 9 - 2	168	4.57
J X 日鉱日石エネルギー株式会 社	東京都千代田区大手町 2 - 6 - 3	166	4.51
日産化学工業株式会社	東京都千代田区神田錦町 3 - 7 - 1	164	4.46
計		2,455	66.77

(注) J X 日鉱日石エネルギー株式会社は、平成28年 1 月 1 日に J X エネルギー株式会社に商号変更されております。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,619 A種株式 42 B種株式 16	3,619 42 16	(注) 1 (注) 2
発行済株式総数	3,677		
総株主の議決権		3,677	

(注) 1 A種株式の内容

- (1) A種株主は、その有するA種株式の発行日から3年間(初日を除く)が経過した日以降いつでも、その有するA種株式にかえて、普通株式の交付を請求することができる。
- (2) 当社は、上記(1)の請求を受けた場合、A種株式1株の取得と引換えに、普通株式1株を交付する。
- (3) 当社は、残余財産を分配するときは、A種株主又はA種株式の登録株式質権者に対し、普通株主又は普通株式の登録株式質権者に先立ち、A種株式1株につき5,000,000円を支払う。A種株主又はA種株式の登録株式質権者に対しては、前記のほか残余財産の分配は行わない。
- (4) 定款において、法令に別段の定めがある場合を除き、会社法第322条第1項に定める種類株主総会の決議を要しないこととしている。
- (5) 譲渡による当社のA種株式の取得については取締役会の承認を要する。
- (6) 当社は単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

2 B種株式の内容

- (1) B種株主は、いつでも、その有するB種株式にかえて、A種株式の交付を請求することができる。
- (2) 当社は、B種株式1株の取得と引換えに、A種株式2株を交付する。
- (3) 当社は、残余財産を分配するときは、B種株主又はB種株式の登録株式質権者に対し、普通株主又は普通株式の登録株式質権者に先立ち、B種株式1株につき10,000,000円を支払う。B種株主又はB種株式の登録株式質権者に対しては、前記のほか残余財産の分配は行わない。
- (4) 定款において、法令に別段の定めがある場合を除き、会社法第322条第1項に定める種類株主総会の決議を要しないこととしている。
- (5) 譲渡による当社のB種株式の取得については取締役会の承認を要する。
- (6) 当社は単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
計					

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社はコース充実のため配当は実施しない方針であります。

4 【株価の推移】

当社は非上場・非登録会社のため、該当事項はありません。

5 【役員の状況】

男性14名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有 株式数 (株)
代表取締役 取締役 社長		内ヶ崎 功	昭和14年1月2日生	昭和37年4月 昭和38年4月 平成3年6月 平成19年10月 平成23年3月 平成27年3月	株式会社日立製作所入社 日立化成工業株式会社独立により入社 取締役就任、以後常務取締役、取締役 社長、取締役会長を経て現在名誉相談 役 当社取締役に就任 当社常務取締役に就任 当社代表取締役、取締役社長に就任	平成27年12月 期に係る定時 株主総会の終 結時から平成 28年12月期に 係る定時株主 総会の終結時 まで	普通株式 0
常務 取締役		土肥之 芳	昭和17年10月6日生	昭和40年4月 平成5年6月 平成21年3月 平成27年3月	日産火災海上保険株式会社入社 取締役就任、以後常務取締役、専務取 締役、取締役副社長、取締役社長を 経て、現在損害保険ジャパン日本興亜株 式会社顧問 当社取締役に就任 当社常務取締役に就 任	同上	普通株式 0
取締役		藤本 修一郎	昭和14年9月20日生	昭和37年4月 平成3年6月 平成15年3月	日産化学工業株式会社入社 取締役就任、以後常務取締役、取締役 副社長、取締役社長を経て現在顧問 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		安藤 重寿	昭和17年3月30日生	昭和39年4月 平成2年6月 平成11年7月 平成13年6月 平成16年6月 平成21年3月	株式会社三和銀行入行 取締役就任、以後常務取締役、専務取 締役 東洋興業株式会社取締役社長就任 日本信販株式会社取締役副社長就任、 取締役会長 日立造船株式会社取締役、取締役会長 を経て現在顧問 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		西尾 進路	昭和15年10月23日生	昭和39年4月 平成7年6月 平成24年3月	日本石油株式会社入社 取締役就任、以後日石三菱株式会社取 締役、常務取締役、新日本石油株式会 社取締役副社長、取締役社長を歴任、 JXホールディングス株式会社取締役会 長を経て現在相談役 当社取締役に就任	同上	普通株式 0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
取締役		小 枝 至	昭和16年8月25日生	昭和40年4月 平成5年6月 平成19年3月	日産自動車株式会社入社 取締役就任、以後常務取締役、取締役副社長、取締役共同会長を経て現在相談役名誉会長 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		庄 山 悦 彦	昭和11年3月9日生	昭和34年4月 平成3年6月 平成23年3月	株式会社日立製作所入社 取締役就任、以後取締役社長、取締役執行役会長、取締役会長、取締役会議長を経て現在相談役 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		佐 藤 泰 久	昭和16年9月13日生	昭和39年4月 平成6年6月 平成23年3月	日本水産株式会社入社 取締役就任、以後常務取締役、取締役専務取締役、取締役副社長を経て現在相談役 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		藤 井 博 行	昭和21年9月11日生	昭和47年4月 平成17年4月 平成26年3月	日立金属株式会社入社 事業役員就任、以降事業役員常務執行役常務、執行役専務代表執行役執行役社長、代表執行役執行役会長兼執行役社長を経て現在相談役 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		高 萩 光 紀	昭和15年12月3日生	昭和39年4月 平成6年6月 平成27年3月	日本鉱業株式会社入社 取締役就任、以後常務取締役、取締役専務執行役員、代表取締役社長を経て現在相談役 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		大 池 弘 一	昭和21年2月24日生	昭和45年4月 平成12年6月 平成27年3月	日本油脂株式会社入社 執行役員就任、以降取締役兼常務執行役員、代表執行役社長、現在代表執行役会長 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
取締役		大 谷 邦 夫	昭和31年5月1日生	昭和55年4月 (昭和60年2月 平成22年6月 平成27年3月)	日本冷蔵株式会社入社 株式会社ニチレイと商号変更) 執行役員就任、以後取締役執行役員、現在代表取締役社長 当社取締役に就任	同上	普通株式 0
監査役		玉 越 良 介	昭和22年7月10日生	昭和45年5月 平成9年6月 平成14年1月 平成17年10月 平成23年3月	株式会社三和銀行入行 取締役就任、以後常務執行役員株式会社UFJ銀行専務執行役員就任、以後副頭取執行役員、取締役副頭取執行役員、代表取締役会長を歴任 株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ取締役会長を経て現在株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問 当社監査役に就任	平成27年12月期に係る定時株主総会の終結時から平成30年12月期に係る定時株主総会の終結時まで	普通株式 0
監査役		木 川 理 二 郎	昭和22年8月2日生	昭和45年4月 平成13年6月 平成28年3月	日立建設機械製造株式会社入社 執行役員就任、以降常務執行役員、専務執行役員、代表執行役社長兼取締役、取締役会長を経て現在相談役 当社監査役に就任	同上	普通株式 0
計							0

- (注) 1 取締役は全員社外取締役であります。
2 監査役は全員社外監査役であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

1 コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は会員制ゴルフ場であります。会員ならび会員が同伴または紹介したゲストにプレーを楽しんでいただくため最適なゴルフ場環境を提供することを目指し、経営の効率的かつ健全な業務執行体制を構築し、経営チェック機能の充実に努めております。

2 コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

当社は監査役2名で全員社外監査役であります。各監査役は取締役会への出席や業務、財産の状況の調査等を通じ、取締役の職務遂行の監査を行っております。

3 当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

4 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、発行済株式総数の3分の1以上にあたる株主が総会に出席し、その過半数をもって決し、取締役の選任決議については累積投票によらない旨を定款に定めております。

5 リスク管理体制の整備の状況

当社は、業務に係る全てのリスクについて適切に管理する体制の整備に取り組んでおります。リスクの共通認識を図るため全取締役が中心となり、リスクの現状を分析し、課題を明確にし、今後の対策について検討を行っております。

6 役員報酬の内容

当社の取締役及び監査役は無報酬であります。

7 内部監査及び監査役監査の組織

当社は比較的小規模な会社であるため、内部監査部門は設置しておりませんが、支配人が業務を監査し、取締役会に報告する体制をとっております。

また、金融商品取引法に基づく会計監査上問題がある場合は適時に監査役会に報告されております。

8 社外取締役及び社外監査役と提出会社との利害関係

社外取締役及び社外監査役と当社の間には、人的関係、資本的关系、取引関係その他の利害関係はありません。

9 業務を執行した公認会計士の氏名

当社は井上監査法人に金融商品取引法に基づく監査を契約しており、業務を執行した社員は、平松正己公認会計士と吉松博幸公認会計士の2名であります。この他に監査業務に係る補助者は1名であります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
4,500		4,500	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

- 1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という)に基づいて作成しております。
- 2 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、平成27年1月1日から平成27年12月31日までの事業年度の財務諸表について、井上監査法人により監査を受けております。
- 3 当社は、子会社がないので連結財務諸表は作成しておりません。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当事業年度 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	158,488	102,253
未収入金	236	227
売掛金	14,316	17,007
商品	4,455	3,327
貯蔵品	6,123	6,863
その他	344	61
流動資産合計	183,965	129,740
固定資産		
有形固定資産		
建物	584,009	585,989
減価償却累計額	379,524	389,530
建物（純額）	204,484	196,458
構築物	358,486	361,186
減価償却累計額	326,105	330,861
構築物（純額）	32,380	30,324
機械及び装置	85,998	88,258
減価償却累計額	83,317	84,697
機械及び装置（純額）	2,681	3,561
車両運搬具	35,179	35,179
減価償却累計額	34,991	35,170
車両運搬具（純額）	187	8
工具、器具及び備品	70,252	71,252
減価償却累計額	66,265	67,544
工具、器具及び備品（純額）	3,987	3,708
土地	1 7,735,156	1 7,735,156
コース勘定	211,329	211,329
リース資産	4,377	4,377
減価償却累計額	2,857	3,587
リース資産（純額）	1,520	790
有形固定資産合計	8,191,727	8,181,337
無形固定資産		
電話加入権	507	507
ソフトウェア	574	347
無形固定資産合計	1,082	855
投資その他の資産		
長期前払費用	255	299
保険積立金	32,071	27,821
投資その他の資産合計	32,326	28,121
固定資産合計	8,225,136	8,210,313
資産合計	8,409,101	8,340,054

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当事業年度 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	654	741
1年内返済予定の長期借入金	1 21,240	1 21,240
未払金	12,093	13,010
未払法人税等	1,060	1,063
未払消費税等	7,058	4,462
未払費用	4,154	4,352
預り金	5,303	5,982
リース債務	790	729
その他	6,468	11,884
流動負債合計	58,822	63,466
固定負債		
長期借入金	1 123,890	1 102,650
退職給付引当金	22,210	15,064
長期預り金	5,842,495	5,819,267
リース債務	729	
繰延税金負債	2,277	2,204
固定負債合計	5,991,603	5,939,186
負債合計	6,050,425	6,002,653
純資産の部		
株主資本		
資本金	77,500	77,500
資本剰余金		
資本準備金	458,250	458,250
その他資本剰余金	526,750	526,750
資本剰余金合計	985,000	985,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
施設維持積立金	80,000	80,000
固定資産圧縮積立金	4,523	4,381
繰越利益剰余金	1,211,652	1,190,519
利益剰余金合計	1,296,175	1,274,901
株主資本合計	2,358,675	2,337,401
純資産合計	2,358,675	2,337,401
負債純資産合計	8,409,101	8,340,054

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)	当事業年度 (自 平成27年 1月 1日 至 平成27年12月31日)
売上高	336,683	335,327
売上原価	170,540	187,817
売上総利益	166,143	147,510
一般管理費	¹ 178,917	¹ 174,731
営業損失()	12,774	27,220
営業外収益		
受取利息	44	31
雑収入	6,306	5,907
営業外収益合計	6,350	5,939
営業外費用		
支払利息	2,741	2,299
雑損失	1,680	942
営業外費用合計	4,421	3,242
経常損失()	10,844	24,523
特別利益		
長期預り金償還益	6,394	4,245
特別利益合計	6,394	4,245
税引前当期純損失()	4,450	20,278
法人税、住民税及び事業税	1,069	1,069
法人税等調整額	74	73
法人税等合計	995	996
当期純損失()	5,445	21,274

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)		当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)		
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	
コース維持費			91,019	53.4	110,763	59.0
キャディ費用			70,780	41.5	67,744	36.0
競技費用			2,365	1.4	2,222	1.2
その他			380	0.2	125	0.1
売店売上原価						
期首商品棚卸高		4,182			4,455	
当期商品仕入高		6,267			5,832	
合計		10,449			10,288	
期末商品棚卸高		4,455	5,994	3.5	3,327	6,961
売上原価合計			170,540	100.0	187,817	100.0

(注) 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)		当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)	
	コース維持費 (千円)	キャディ費用 (千円)	コース維持費 (千円)	キャディ費用 (千円)
給料手当	47,256	69,204	54,275	66,456
修繕費	125		319	
肥料薬品資材費	21,808		24,807	
自動車費	5,193		4,902	
減価償却費	5,951		5,163	

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	75,000	455,750	526,750	982,500
当期変動額				
新株の発行	2,500	2,500		2,500
固定資産圧縮積立金の取崩				
当期純損失()				
当期変動額合計	2,500	2,500		2,500
当期末残高	77,500	458,250	526,750	985,000

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計	
	施設維持積立金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	80,000	4,671	1,216,950	1,301,621	2,359,121
当期変動額					
新株の発行					5,000
固定資産圧縮積立金の取崩		147	147		
当期純損失()			5,445	5,445	5,445
当期変動額合計		147	5,297	5,445	445
当期末残高	80,000	4,818	1,222,247	1,296,175	2,358,675

当事業年度(自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	77,500	458,250	526,750	985,000
当期変動額				
固定資産圧縮積立金の取崩				
当期純損失()				
当期変動額合計				
当期末残高	77,500	458,250	526,750	985,000

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計	
	施設維持積立金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	80,000	4,523	1,211,652	1,296,175	2,358,675
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		142	142		
当期純損失()			21,274	21,274	21,274
当期変動額合計		142	21,132	21,274	21,274
当期末残高	80,000	4,381	1,190,519	1,274,901	2,337,401

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失()	4,450	20,278
減価償却費	19,631	18,329
受取利息	44	31
支払利息	2,741	2,299
長期預り金償還益	6,394	4,245
ソフトウェア償却費	226	226
長期前払費用償却額	249	251
退職給付引当金の増減額(は減少)	5,049	7,145
売上債権の増減額(は増加)	1,054	2,690
たな卸資産の増減額(は増加)	612	387
仕入債務の増減額(は減少)	474	86
未払消費税等の増減額(は減少)	5,150	2,596
その他	12,229	7,442
小計	1,024	7,962
利息の受取額	44	31
利息の支払額	2,741	2,299
法人税等の支払額	1,067	1,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,739	11,297
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	6,773	7,939
保険積立金の積立による支出	883	
保険積立金の取崩による収入		4,249
定期預金の預入による支出		10,006
長期前払費用の取得による支出	123	296
その他	160	
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,620	13,992
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	21,240	21,240
長期預り金の返還による支出	28,606	18,982
その他	729	729
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,575	40,952
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	60,935	66,241
現金及び現金同等物の期首残高	219,424	158,488
現金及び現金同等物の期末残高	158,488	92,246

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(付属設備を除く)については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 6～50年

構築物 3～45年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

3 引当金の計上基準

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき簡便法によって計上しております。

4 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理について

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 前事業年度(平成26年12月31日)

1年内返済予定の長期借入金21,240千円及び長期借入金123,890千円の担保として土地の一部2,851,983千円を供しております。

当事業年度(平成27年12月31日)

1年内返済予定の長期借入金21,240千円及び長期借入金102,650千円の担保として土地の一部2,851,983千円を供しております。

(損益計算書関係)

1 主な内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)
給料手当	58,651千円	58,317千円
福利厚生費	15,058	15,440
光熱費	13,968	13,338
租税公課	29,540	24,703
支払手数料	8,257	8,274
退職給付費用	496	517
減価償却費	12,951	12,436

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,618	1		3,619
A種株式(株)	42			42
B種株式(株)	16			16
合計	3,676	1		3,677

増加理由：普通株式 平成26年10月9日第三者割当1株を実施いたしました。

当事業年度(自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,619			3,619
A種株式(株)	42			42
B種株式(株)	16			16
合計	3,677			3,677

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)
現金及び預金勘定	158,488千円	102,253千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金		10,006
現金及び現金同等物	158,488	92,246

(リース取引関係)

1 所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

車両運搬具であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

主として預金であり、信用リスクは僅少です。また、デリバティブ取引は全く利用しておりません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク

当社は、営業債権(売掛金)について取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク

該当事項はありません。

資金調達に係る流動性リスク

当社は、財務の状況を随時チェックしており、一定の手許流動性を維持すること等によりリスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

該当事項はありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注4)を参照ください。)

前事業年度(平成26年12月31日)

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	158,488	158,488	
(2) 売掛金	14,316	14,316	
資産計	172,805	172,805	
(3) 長期借入金	145,130	145,130	
負債計	145,130	145,130	
(4) デリバティブ取引			

当事業年度(平成27年12月31日)

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	102,253	102,253	
(2) 売掛金	17,007	17,007	
資産計	119,260	119,260	
(3) 長期借入金	123,890	123,890	
負債計	123,890	123,890	
(4) デリバティブ取引			

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 売掛金

売掛金はすべて短期に決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらは変動金利であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成26年12月31日)

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	158,488			
売掛金	14,316			
合計	172,805			

当事業年度(平成27年12月31日)

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	102,253			
売掛金	17,007			
合計	119,260			

(注3) 長期借入金の決算日後の返済予定額

前事業年度(平成26年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	21,240	21,240	21,240	21,240	21,240	38,930

当事業年度(平成27年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	21,240	21,240	21,240	21,240	21,240	17,690

(注4) 長期預り金(貸借対照表計上額当事業年度5,819,267千円、前事業年度5,842,495千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが困難であるため、上記の表には含めておりません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引は全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(千円)		
	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)
退職給付引当金の期首残高	27,259	22,210
退職給付費用	2,625	1,462
退職給付の支払額	7,675	8,608
退職給付引当金の期末残高	22,210	15,064

(2) 退職給付債務及び退職給付に係る資産の調整表

(千円)		
	前事業年度 (平成26年12月31日)	当事業年度 (平成27年12月31日)
非積立型制度の退職給付債務	22,210	15,064
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	22,210	15,064
退職給付引当金	22,210	15,064

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前事業年度2,625千円	当事業年度1,462千円
----------------	--------------	--------------

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当事業年度 (平成27年12月31日)
(繰延税金資産)		
繰越欠損金	20,431千円	30,013千円
退職給付引当金	7,857	5,310
その他	361	285
小計	28,650	35,609
評価性引当額	28,650	35,609
繰延税金資産小計		
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	2,277	2,204
繰延税金負債の純額	2,277	2,204

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度(平成26年12月31日)

当事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。

当事業年度(平成27年12月31日)

当事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業はゴルフ場の経営で単一セグメントであるため、セグメント情報に係る記載を省略しております。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

前事業年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

(単位：千円)

	プレー収入	名義書換料	その他	合計
外部顧客への売上高	273,439	43,800	19,443	336,683

当事業年度(自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)

(単位：千円)

	プレー収入	名義書換料	その他	合計
外部顧客への売上高	269,985	32,850	32,492	335,327

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関係会社がないため、該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	当事業年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)
1株当たり純資産額	549,509円	543,631円
1株当たり当期純損失()	1,505円	5,878円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益		円

(注) 1 前事業年度及び当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	第57期 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	第58期 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)
1株当たり当期純損失		
損益計算書上の当期純損失()(千円)	5,445	21,274
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純損失() (千円)	5,445	21,274
普通株式の期中平均株式数(株)	3,618.3	3,619
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)		
(うちA種株式(株))	()	()
(うちB種株式(株))	()	()
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券が無いため、記載を省略しました。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	584,009	1,979		585,989	389,530	10,005	196,458
構築物	358,486	2,700		361,186	330,861	4,756	30,324
機械及び装置	85,998	2,260		88,258	84,697	1,379	3,561
車両運搬具	35,179			35,179	35,170	179	8
工具、器具及び備品	70,252	1,000		71,252	67,544	1,278	3,708
土地	7,735,156			7,735,156			7,735,156
コース勘定	211,329			211,329			211,329
リース資産	4,377			4,377	3,587	729	790
有形固定資産計	9,084,789	7,939		9,092,729	911,392	18,329	8,181,337
無形固定資産							
電話加入権	507			507			507
ソフトウェア	1,133			1,133	785	226	347
無形固定資産計	1,641			1,641	785	226	855
長期前払費用	946	296		1,242	942	251	299
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 主要増減事由

(増加) 建物	男子浴室トイレ	1,979千円
構築物	カート道路舗装	2,700
機械及び装置	バンカー均し機	2,260
工具、器具及び備品	キャディハウス空調機(2台)	1,000

【社債明細表】

社債がないため、記載を省略しました。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内返済予定の長期借入金	21,240	21,240	1.7	
1年以内返済予定のリース債務	790	729	1.9	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	123,890	102,650	1.7	平成33年10月29日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	729			
その他有利子負債				
合計	146,650	124,680		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2 長期借入金の貸借対照表日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	21,240	21,240	21,240	21,240

【引当金明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	4,913
預金	
普通預金	87,333
定期預金	10,006
合計	102,253

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
JCBほかカード(注) 1	8,869
深井美奈子ほか(注) 2	6,136
コンベ費用ほか	2,000
合計	17,007

- (注) 1 プレー代金
2 年会費、ロッカーレント料

売掛金の回収状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
14,316	370,206	367,516	17,007	95.6	15.4

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品

品名	金額(千円)
ゴルフ用品類	2,401
飲食用品	925
合計	3,327

貯蔵品

品名	金額(千円)
肥料及び農薬品類	5,265
ハウス用品等	1,598
合計	6,863

買掛金
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)光星商事	376
(株)ハシモト物産	175
その他	189
合計	741

長期預り金

区分	金額(千円)
週日会員入会金 76人 @250千円	19,000
〃 98人 @350千円	34,300
平日会員資格保証金 81人 @1,300千円	105,300
記名特別会員資格保証金 127人@10,000千円	1,270,000
2人@ 5,000千円	10,000
無記名特別会員資格保証金 219人@20,000千円	4,380,000
その他	667
合計	5,819,267

(3) 【その他】

該当事項は、ありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	月 日
株券の種類	普通株式 1株券 10株券 20株券 A種株式 1株券 B種株式 1株券
剰余金の配当の基準日	月 日
1単元の株式数	株
株式の名義書換え	
取扱場所	本社 (株)小山カントリー倶楽部 栃木県小山市大字喜沢1140番地
株主名簿管理人	該当事項なし
取次所	該当事項なし
名義書換手数料	
新券交付手数料	
単元未満株式の買取り	
取扱場所	
株主名簿管理人	
取次所	
買取手数料	
公告掲載方法	電子公告 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 http://www.oyamagolf.jp
株主に対する特典	小山ゴルフクラブ会員となる資格を有する。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

該当事項ありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

- | | | | |
|-------------------------|----------------|------------------------------|--------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類 | 事業年度
(第57期) | 自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日 | 平成27年3月25日
関東財務局長に提出。 |
| (2) 有価証券報告書
の訂正報告書 | 事業年度
(第57期) | 自 平成26年1月1日
至 平成26年12月31日 | 平成27年4月1日
関東財務局長に提出。 |
| (3) 半期報告書 | (第58期中) | 自 平成27年1月1日
至 平成27年6月30日 | 平成27年9月29日
関東財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項は、ありません。

独立監査人の監査報告書

平成28年3月23日

株式会社 小山カントリー倶楽部
取締役会 御中

井上監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 平 松 正 己

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉 松 博 幸

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社小山カントリー倶楽部の平成27年1月1日から平成27年12月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社小山カントリー倶楽部の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。